ティーフとしてギリシャ人によって装飾化されたアカンサスを一株分けて下さって，これがコリンシャン・オーダーの柱冠のもとだと教えて下さった．ご自宅のまわりに 20 株ほど植えてあってこれを皆さんにあげると楽しんでおられた．先生は早稲田大学在学中島村抱月に心酔されていたが，大正 8 年抱月の死後，先生はご本名正英（まさふさ）を抱月の影を抱く意で抱影とされた．私には今はもう抱く影がなくなった，乎々．

星の文人—野尻先生追仰—

大　崎　正　次

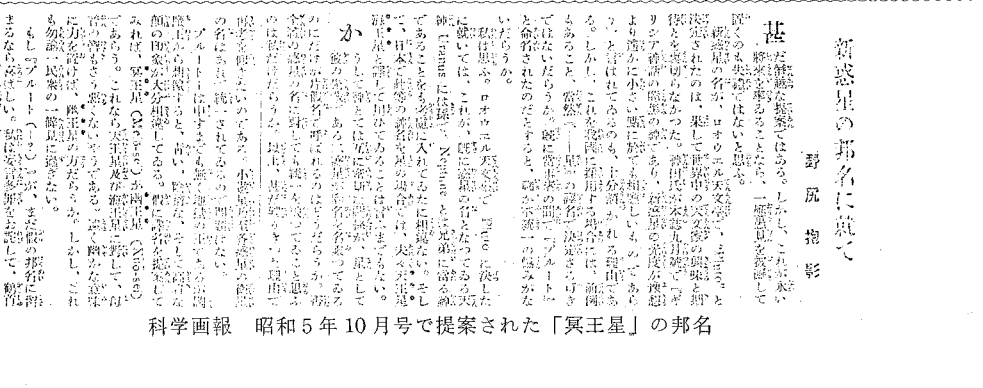
ご長寿のおかげで長いあいだ身近かに接し，また数多くの著書にも親しんできましたが，いま身にしみて感じることは，野尻先生はやっぱり文学の人だったなあ，ということでした．先生の文章の中に波うつものがロマンティシズムであることはたしかですが，それは先生の若き日の心をゆさぶった西洋の世紀末的，日本の耽美的な明治浪曼主義ではなかったかと思っています．それは終生変ることなく先生の血の中を流れていました．あの多少甘くはありましたが，肌ざわりのよい，さわやかな文章の味わいも，星の美と神秘を語るには，まことにふさわしいものであったとしかいえません．その点では，先生のなくなられたあと，先生をこえる甘美な星の文学はもうあらわれまいと思っています．

それにしても，先生のみずみずしい感覚，それを高くもり上げた豊かな詞藻，文字通り東西古今にわたる宏大な学識，それらを常に掌中のものになしえた博覧強記，その上，耳こそ遠くなられましたが，思考明晰であられてのご長寿，そのどれをとっても先生は驚くべき超人でした．

ゆきずりの読者には，野尻先生は天文学の啓蒙的解説者，星を語る随筆家としかみえなかったかもしれません．しかしその解説は，時には専門家よりもたくみに説かれ，随筆といっても，散文詩ともいうべき美しい文章を書かれ，またしばしば軽妙な俳句もよまれました．先生の書かれたものにうらうちされた先生の学問芸術に対する教養の広さと深さはなみたいていのものではありません．先生は洋の東西，それも古今にわたって実に広く書物を読まれました．というより，世界の人の星の美感・星についての知識を求めるために，万巻の書を読まれたのかもしれません．先生こそは，星の美の探求のために，その生涯を星に入れあげた稀有の方でした．

したがって著述にあらわれた領域の広さと息の長さも驚嘆すべきものでした．90 歳をこえてなお現役の執筆者であった例を先生をおいて私は知りません．先生のご専門の英文学のことはさておき星の神話・伝説についての比較民族学的調査は，全世界に及んでいます．誰も目を向けなかった星の和名，それに伴う民間伝承の蒐集は，日本の方言学会民俗学会へ大きく貢献されました．これは先生のお仕事の中でも，長く後世に残る特筆すべき業績です．美術史の世界では，特に仏教美術の中の星辰信仰についての図像研究は，先生の独壇場でした．ただ先生の御研究は，文学の人であった先生らしく，いかめしいアカデミズムのよそおいはとられませんでした．これは終生野にあった方というだけではなく，長年おつとめになった研究社で身につけたジャーナリストとしての感覚意識が，そうさせたのかもしれません．先生の時折示された新鮮な発想と表現は，マスコミというメディアを晩年に至ってもはっきり意識しておられました．

先生は文人ではありましたが，行いすました脱俗の文人ではありませんでした．随筆家というよりは詩人であり，学者であり，年季のはいった編集人でもありました．野尻先生はまさにまれにみる独自の風格をもった〈星の文人〉であったと思います．このような先達をえた日本の星好きはまことに幸いでした．またそういう星の文人のおかげで，多方面にわたる星好きが多く生まれたのかもしれません．星に生涯を捧げたかわりに，御自身でも生涯星を愛し楽しみ，その上に日本中の天文愛好者に心から慕われた先生はほんとうに幸福なお方であったと思います．


新惑星の邦名に就て
野尻抱影
甚だ新鮮な提案ではある。しかし、これが赤い
勝手な提案ではないと思ふ。
最近新星の名が、ロオウエル天文学で、ユピテル、
海王星などと命名されたのは、果して神話中の神々の興味と押
リシア神話の神であり、海王星の光度が微弱
より遥かに小さい惑星に於ても相当しかし、
る。しかし、これを惑星に採用する場合には、前例
あること、偶然ユピテルの諸衛星の決定さる
ではないだらうか。既に衛星の間にプルートに
と命名されたのだとすると、
いだらうか。
私は思ふ。ロオウエル天文学で「ユピテ」に決した
に続いては、これが、既に衛星の名となつてゐる天王
神（Uranus）に伝説で、ヌプチューン（Neptune）とは兄弟に当る海
であることを考慮に入れてゐたに相違ない。そし
て、日本で提案の新邦名を神の場合には、天王星、海王
星、冥王星を採用して用ひてあることは言はまでもない。
かしこの神話とは別に、海王星は、ある意味に於て、
の名はふさはしいのである。小惑星の名
は、ギリシアの神話の中に求めてもよいだらうが、現在、
既に名を使ひ尽くしてゐるのである。
プルートーは地獄の王であるから、
顔の印象が大分相違してゐる。
あらう。これなら天王星、海王星、冥王星
の名がふさはしい。
もし「プルート（ハーデス）」が、まだ既の振名に
まるならばよい。
してその確信を発表の日を待つことにする。

科学画報　昭和5年10月号で提案された「冥王星」の邦名